



- ① ベストセラーの汎用攪拌機
- ② 新製品の動物細胞培養攪拌装置
- ③ 大阪事業所の社屋
- ④ 大阪事業所の全景

さ た け か が く き かい こう ぎょう
佐竹化学機械工業 株式会社

- 企画力
- 短納期
- 小ロットOK
- 量産OK
- 試作OK
- ノウハウ技術
- 海外対応
- 連携力

代表取締役社長
にしおか みつとし
西岡 光利さん



産業用攪拌機の国内トップクラスのシェアが技術と信頼の証

「お客様が満足し、安心して使用できる製品づくりに徹する」を理念に掲げ、機械や装置の製造・販売のみならず、装置部品の試作や試験、シミュレーションなどにも対応。研究開発型企業として常に新しい技術にチャレンジしています。平成28年2月には業界では他に類を見ない「新・攪拌技術研究所」(埼玉県戸田市)を完成。研究開発にさらに磨きをかけています。最新鋭の実験設備を活用し、攪拌に関する基礎研究や顧客との共同研究・開発など、多様化するニーズに合わせた最適な技術を提案。名実ともにアジアナンバーワンを目指して取り組んでいます。

- **主な事業内容**
産業用攪拌機や環境試験機器などの開発・製造・販売、アフターサービス
- **主な取引先(納入先)**
化学工業、エンジニアリング産業、電気・電子機器分野

住 所 / 〒570-0035
大阪府守口市東光町2-18-8
TEL / 06-6992-0371
FAX / 06-6998-4947
創 業 / 大正 9年4月
設 立 / 昭和13年3月
資本金 / 9,000万円
従業員 / 200名

<http://www.satake.co.jp/>

攪拌装置と環境試験装置で アジアナンバーワンを目指す

事業内容と沿革

あらゆる分野で顧客に最適な製品を提案

大正9年に創業。当時はドイツメーカーから攪拌機を仕入れて国内販売していたが、その後、自社製造に着手。大正13年に攪拌機の実用化第一号機を完成した。事業の柱は攪拌機と環境試験装置で、常に研究開発に力を注ぎ、顧客ごとに最適な攪拌を提案している。石油精製や食品・医薬、塗料など幅広い分野へ、液体に特化した攪拌機を提供し、国内シェアを拡大してきた。

一方、海外展開については30年以上前から、顧客のアジア進出のサポート活動を推進。現在では中国や韓国、台湾などアジア各国に合弁会社や技術提携先、販売会社を設け、日系企業の現地法人への納入実績も増やしている。昨年はマレーシアにも環境事業の販売拠点を新たに設立し、従来の拠点と合わせたネットワークを拡大。グループ製品のアジア圏へのワンストップ・ベストミックス供給に加え、きめ細かなアフターサービス体制を構築している。

強み

研究開発を重視し、常に新しい技術にチャレンジ

研究開発型企業として常に新しい技術にチャレンジしている。時代の変化とともに攪拌プロセスに求められる技術は複雑・多様化しているが、これらさまざまな技術要求に対応するべく、平成28年2月に「新・攪拌技術研究所」を完成させた。攪拌専門の研究施設としては国内では他に類を見ないという。攪拌の基礎技術から応用研究、共同研究など流体制御におけるあらゆる課題を解決する。レーザードップラー流速計、流動解析装置、可視化・数値シミュレーションなど最先端の研究手法に加え斬新な発想、蓄積されたノウハウで顧客ごとに最適な攪拌を提案できるのが強みである。

生産ラインでは全社一元化したIT生産管理システムを構築。受注した機器の情報は即時にインプットされ、ネットワーク上で生産・納期の管理を行っている。開発・設計のCADシステムとも連携し、より最適な仕様の機器を確実にスピーディーに生産している。

取り組み

新製品・新技術でさらなるシェアの拡大を狙う

近年、抗体医薬品などバイオ医薬品の需要が世界的に拡大している。同社はこの成長分野でのシェア拡大を狙い、動物細胞培養専用の上下動式攪拌装置「ブイムブミキサー」、「バーサリアクター」を販売してきた。そして平成28年7月にはブイムブミキサーの機能をより充実させた「VMFリアクター」を発売。合わせて、滅菌が不要で使い捨てを可能にしたシングルユース培養槽(ハードボトル)も発売した。繊細なせん断力の調整が可能で、目的とする成分の生産において高い生細胞率と良好な細胞状態を維持できる。バイオ医薬品の原薬製造における歩留まりの改善と、純度向上が期待できる新技術として注目されている。

また同年8月に発売した「New Side Mixer」は大型石油備蓄タンク内のスラッジの堆積防止や、火力発電所の排煙脱硫装置に最適な側面取り付け型の攪拌機。タンクへの複数台設置やインペラ(攪拌機先端の羽根車)の首振りが可能で設置自由度が高く、使いやすさが向上している。

今後の展開

攪拌技術研究所を核に高度化するニーズに対応

攪拌技術研究所を中心にさまざまな新技術・新製品を生み出している。現在、同研究所の主流となっているのはバイオ関連分野である。例えばiPS細胞(人工多能性幹細胞)分化誘導培養装置は、再生医療分野や創薬分野などの新市場における事実上の標準化を目指した取り組みであり、最新の研究結果から未分化のiPS細胞を極めて均一・均質に分化誘導できることが明らかになっている。

現在は主にラボスケールをターゲットとしているが、さらに先を見据え、産業化や大量培養にも取り組んでおり、規模の大小を問わず対応可能な装置として近々の市場投入を目指している。その他、主力の攪拌機のモデルチェンジや、高効率インペラの開発と用途展開も併せて進めている。時代の流れとともに顧客ニーズの多様化・高度化のスピードは加速しているが、今後も同研究所を核に全社一丸となって技術開発に取り組んでいく。アジアナンバーワンの攪拌機メーカーを目指して。